

第2学年 英語科学習指導案

1 単元名 Unit 4 “Homestay in the United States” (NEW HORIZON English Course 2)

2 単元の目標

(1) コミュニケーションへの関心・意欲・態度

- ・学校や家での役割という話題について積極的に尋ねたり答えたりしている。

(2) 表現の能力

- ・ **have to** や **must** を正しく用いながら、学校や家での役割や日米文化の相違点などを書くことができる。
- ・ **must / mustn't** を用いて、アドバイスを書くことができる。

(3) 理解の能力

- ・ホームステイ先での対話文や相談、助言の内容を聞いたり読んだりして、本文の内容を正しく読み取ることができる。

(4) 言語や文化についての知識・理解

- ・ **<have to**、**don't have to** **>**、**<will** **>**、**<must**、**must not** **>** の文型、意味、用法を正しく理解する。
- ・ホームステイやその家族の一員としてどうあるべきか知る。

3 指導に当たって

(1) 教材観

本単元ではホームステイに関する話題が取り上げられている。滞在先で初めて経験することやホームステイに対する考え方の違いから起こる悩みや不満が出てきており、内容を読み進めながら文化や習慣の違いを知ることができる。またこの単元には「完璧な英語でなくてもよいから、とにかく英語を話すこと」という内容があり、ホームステイに限らずコミュニケーションをとる上で大切なことが含まれている。ホームステイをする中での自分の役割に関連させて、家庭や学級などでの自分の仕事や役割分担を助動詞 **have to** や **must** を使って表現するのにもよい単元である。

(2) 生徒観

基礎コース

以前より助動詞の後や不定詞のときは動詞の原型を用いることを確認しており、また新出単語の学習時には品詞についても言及している。そのため、**have to** や **must** についても動詞とのつながり方はスムーズに入っていけるものと思われる。生徒たちは単語や文章を読むことに対してはそれほど困難さを持っておらず、何度も練習すればかなり読めるようになる。ただ、内容理解に対しては多くの支援を必要としている。英語での質問に英語で答えることはかなり難しく、本文の内容を学習した後でも、教師の英語による質問の意味が分からなかったり、どう答えればよいのか分からなかったりする。日本語での問いかけに加え、本文中のヒントとなる表現をいくつも挙げると、やっと答えが出るという状態である。しかし、異文化や時事に興味を持っている生徒は多く、ホームステイに関することや日米文化の相違点を取り上げながらの活動には関心を持って授業に臨むことであろうと思われる。

発展コース

日頃から品詞について、特に動詞や形容詞については新出の度に確認しているので have の意味を理解している生徒は多い。また文法的な知識だけではなく、表現する力をつけるためにも、新文型導入の際はその文型を用いて身近な話題や自分のこと、身の回りのことについて表現する活動を行っており、生徒たちも楽しみながら参加し、取り組んでいる。本コースは人間関係も良好であり、ペア、グループ活動もスムーズに取り組むことができる。中には英語に苦手意識を持っている生徒もいるが、ホームステイに関する写真やホームステイ体験者の経験談を組み入れることで、本単元の内容に興味を持って学習すると思われる。自己表現活動や音読のペア活動に加え、ワーク、プリントでの個別の復習で更なる定着が期待される。

(3) 指導観

基礎コースでは、**have to** や **must** を、身近な係活動と関連させることで、自然に英文を書けるのではないかと考えている。助動詞＋動詞の原型という形は **can** でも練習をしているので、それを思い出させながら、生徒にとって身近な話題の英文をたくさん用いながら導入をしていきたい。本文指導においては、未体験であるホームステイという題材ではあるが、登場人物の心情を想像させながら音読指導をしていきたい。(2) の生徒観でも書いたように、内容理解を苦手としている生徒が多いため、**picture cards** や CD の音声を利用し、登場人物の心情などを想像しやすい環境をつくり、その上での細かい内容理解に進みたい。

発展コースでは **have** と **have to** をしっかり区別させ、**must** についても既習の助動詞 **can** と同じ働き、文の形を取ることを気づかせたい。また新文型の理解から活用につなげるため生徒一人ひとりが家庭や学校での役割を考え発表する表現活動に力を入れていきたい。それと同時に他者の発表を聞くことで学校以外での様子を知り、**have to** や **must** を使いながら自然なコミュニケーションを図ることをねらいとする。本単元は生徒がイメージしやすく興味を持てる内容であると考えられ、自分達の習慣、イメージと違う新しい発見があったり、ホームステイに限らず今後の生活に役立つアドバイスを知ることができたりする。まずは単語や文の発音、アクセント、意味を正しく理解するため、音読活動にも BGM を利用したり読む上でのねらいを明確にしたりするなどの工夫を凝らし生徒が意欲的に音読活動に取り組むことができるようにしたい。そして内容や要点を読み取り、文化や考え方の違いをどう思うか、など内容に関して自分の感想や考えを持たせ自由に発表できる場を設定したいと考えている。

4 本時の学習 (第三次 第2時)

(1) 小単元名 Unit4-Reading for Communication

(2) 本時のねらい

must や **must not** を用いて奈々とカルロへ説得力のあるアドバイスを書くことができる。

(表現)

(3) 学び合いの場を設定し、活用力を育てる授業の工夫

考えを共有し、共通点や相違点を整理しながら自分の考えを広げたり深めたりする。

(4) 準備・資料等

ワークシート、FLASH CARDS、DVD デッキ、DVD、CD、CD プレーヤー

(5) 本時の展開 (基礎コース)

時間	学習活動	主な発問 (●) と指示 (▲)	教師の支援 (○) 評価 (☆) 活用力 (★)
つかむ	Greeting Introduction ・ 奈々とカルロから届いたビデオレターを見る。	▲ 2 人の表情に注目しながらビデオレターを見よう。	
深める	・ 黒板に貼った 2 人のビデオレターの内容を理解する。	● 奈々とカルロはどんな気持なのでしょう？	
	奈々とカルロが安心してホームステイを続けられるようなアドバイスをしよう。 Activity ・ ペアになって 2 人にアドバイスを考える。 ・ ワークシートにアドバイスを書く。(発表用に色用紙にも書く) ・ ペアで前に出て発表	● みなさんが 2 人の先生ならどのようなアドバイスをしますか？ ▲ must / mustn't を使ってアドバイスを考える。 ▲ 辞書を使用してもよい。 ▲ みんなのアドバイスを聞いて、自分のアドバイスと比べてみよう。	★ 自他の考えを比較、整理し、より良い内容を求めながら書く力。 (学び合う力) ☆ must / mustn't を用いて説得力のあるアドバイスを書くことができる。 【表現】 ワークシート ○ 机間巡視をし、内容を迷っているようであれば例を出しながら助言する。
まとめる	Conclusion ・ 2 人にテレビ電話でアドバイスを伝える。 ・ 2 人からアドバイスを受けての感想を聞く。 Closing	▲ 奈々とカルロが安心できるように、2 人にアドバイスを伝えよう。	

(5) 本時の展開 (発展コース)

時間	学習活動	主な発問 (●) と指示 (▲)	教師の支援 (○) 評価 (☆) 活用力 (★)
つかむ	Greeting New Words ・発音練習	▲th の発音やアクセントの位置を確認しながら発音しよう。 ▲ 一人ずつ発音する。	
深める	Introduction ・奈々とカルロから届いたビデオレターを見る。 ・相談の内容を理解する。	● 奈々とカルロは、どんなことに悩んでいるのでしょうか？	
	Activity ・ペアになってアドバイスを考える。 ・ワークシート（個人用と発表用）にアドバイスを書く。	● みなさんが 2 人の先生ならどのようなアドバイスをしますか？ ▲must や mustn't を使ってアドバイスを考える。 ▲ 辞書を使用してもよい。	★ 自他の考えを比較、整理し、より良い内容を求めながら書く力。 （学び合う力） ☆must や mustn't を用い、説得力のある内容でアドバイスを書くことができる。 【表現】 ワークシート ○自分ならどう言ってほしいか考えてみたり、教師からヒントを出したりする。
まとめる	Conclusion ・ペアで考えたアドバイスを相手に伝わるように発表する。 ・奈々、カルロ役ペアは感想を簡単に述べる。 Closing	● みんなのアドバイスはそれぞれどんな内容でしょう？それを聞いて奈々・カルロならどう思いますか？ ▲ 先生役のペアと奈々・カルロ役のペアを決める。単にアドバイスを発表するだけでなく、奈々・カルロ役はアドバイスを受けて、感想や決意等を先生役に応答し、自然な会話になるようにする。	